

ツキノワグマにご注意を

出没情報過去最多

全国的に市街地周辺でクマの出没が増加し、人身被害も発生している中、大阪府内でも令和7年度11月時点で過去最多となる22件(クマらしきものを含む)の出没情報が確認されている。府内で恒常的な生息は確認されていないが、隣接府県の個体が

一時的に侵入しているとみられており、冬眠前のエサを求める行動範囲拡大が背景にある。目撃情報や痕跡は島本町、高槻市、豊能町、能勢町など府北部地域に集中しており、爪痕や足跡の発見が相次いでいる。府は人身・農業被害の防止に向け、

柿や栗などの果樹の実を残さず収穫し、不要な果樹は伐採する、庭先の果実くずを放置しない、農地周辺の藪を刈り取るなど、クマを誘因しないための対策を呼び掛けている。

また、府は今年8月に野生鳥獣対応職員や猟友会のハンターを対象に「令和7年度大阪府ツキノワグマ出沒対策研修会」を開催。クマの出没による対応が

必要になった場合に備えて、クマの生息を踏まえた出沒時に必要な行政機関の対応、クマ檻の設置手順の習得など、危機管理意識の向上を図った。

クマへの対応経験が乏しい府内猟友会の体制強化も課題となっており、府は来年度、北部地域を対象に生息調査を実施するとともに、ハンター育成に注力する方針を示している。(林佑)



ツキノワグマ出沒対策研修会の様子
(大阪府HPより)

随 想

先日、厚生労働省の就業構造基本調査(令和4年度)を見る機会があり、就業者の年齢割合は、43%以上が50歳代以降となっており、20歳代は15%と労働力の急激な高齢化を実感しました。



中小企業診断士・特定社会保険労務士
土居 伊子

はじめて人を雇う際の留意点

経営者の働き方としては、後の時間の確保が重要です。具体的には販路開拓や原価計算、人材育成、作業の効率化などいわゆる「しくみ作り」です。この時間を確保できていなければ「労多くして益なし」といった

が多いかと思えます。自分の仕事を誰でもできるように棚卸しし、マニュアル化、切り分けをしておきましょう。これは災害時や経営者自身の休業などのイザという時、あるいは事業承継や設備導入、緊急

1. なぜ人を雇うのか(目的)を明確にする

経営者として日々「急ぎで重要な仕事」「急ぎでない重要な仕事」、どちらに多く時間を割いているでしょうか？

2. 何の業務をしてもらうのか(業務の棚卸)

「なんとなく」「自分がやってきたことを」「なんとなく」丸投げしても、うまくいかないこと

3. 誰を雇うのか

経営者以上の情熱、スキルをもって仕事ができる人材、あるいは即戦力となる人材は残念ながらほぼ存在しません。「良い人を採用したい」ではなく、最低限譲れない人材像を具体的に3つだけ絞ってみましょう。

4. いくらぐらいお金がかかるのか

また、冒頭にお伝えしたように、昨今は年齢の条件を設けてしまうと少ない人数の中でさらに良い人材を確保しなければならず、なかなか人材確保に至らない可能性があります。

◇筆者の紹介(どい よしこ)

中小企業診断士・特定社会保険労務士。大阪府出身。平成26年、大阪市内で社会保険労務士事務所開業。農業関連では主に人材採用・雇用管理の支援を行う。公的支援機関の経営支援コーディネーターとして中小企業の支援の他、創業関連組織活性化等のセミナーも行っている。先日開幕した関西万博では、食や農業関連のパビリオン・展示に一番興味を惹かれました。